

第 50 回 知的財産管理技能検定

3 級 学科試験

(はじめに)

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2024年9月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

解答は、選択枝ア～ウの中から1つ選びなさい。

問1

ア～ウを比較して、商標権に係る専用使用权又は通常使用权に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 専用使用权者は、設定された範囲において、指定商品に類似する商品又は指定役務に類似する役務について登録商標を独占排他的に使用する権利を有する。
- イ 商標権者は、重複する範囲について複数人に通常使用权を許諾することができる。
- ウ 商標権が共有に係る場合、他人に専用使用权や通常使用权を設定・許諾するには、他の共有者の同意が必要である。

問2

ア～ウを比較して、著作物として保護されるものとして、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 地図
- イ プログラム言語
- ウ 建築

問3

ア～ウを比較して、不正競争防止法に規定する不正競争行為に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 競合他社が保有する製品の効率的な製造方法を不正な手段で取得しても、当該製造方法がウェブサイトで公表されている場合、営業秘密不正取得行為に該当しない。
- イ 商標登録出願がされていない他人の周知商標に類似する商標を使用する行為であっても、周知表示混同惹起行為に該当しない場合がある。
- ウ 意匠登録出願がされていない他社の商品の形態を模倣した商品をその他社の商品の最初の販売から6年経過した時点で販売する行為は、商品形態模倣行為（不正競争防止法第2条第1項第3号）に該当する。

問 4

ア～ウを比較して、特許権の設定登録前に行うことができる特許出願に係る手続に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許異議の申立て
- イ 拒絶査定不服審判の請求
- ウ 判定の請求

問 5

ア～ウを比較して、著作権の制限に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 公表された著作物は、営利を目的とせず、かつ、聴衆又は観衆から料金を受けない場合であれば、公に上演することができる。
- イ 未公表の著作物を引用することはできない。
- ウ 美術の著作物の原作品の所有者は、当該著作物を原作品により公に展示することができる。

問 6

ア～ウを比較して、品種登録の要件に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 出願品種の種苗が、出願前に外国で公知であった他の品種と特性の全部によって明確に区別できない場合は、品種登録を受けることができない。
- イ 同じ時期に栽培した出願品種の種苗が、その種苗の間で特性が異なる場合は、品種登録を受けることができない。
- ウ 出願品種の種苗又は収穫物が、日本国内において、品種登録出願の日から 1 年 6 カ月前に、業として譲渡されていた場合でも、品種登録を受けることができる。

問 7

ア～ウを比較して、著作権の存続期間に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作権の存続期間は、著作物の創作の時に始まる。
- イ 個人の著作物の著作権の存続期間が満了しているかどうかを判断するためには、その著作者の死亡年だけでなくその月日も調査しなければならない。
- ウ 映画の著作物の著作権は、創作後 70 年以内に公表されないときは、創作後 70 年を経過するまでの間存続する。

問 8

ア～ウを比較して、特許権の侵害に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許権者は不当利得返還請求をすることはできないが、信用回復措置請求をすることはできる。
- イ 特許権者は差止請求及び損害賠償請求を同時にすることはできない。
- ウ 特許権者は不当利得返還請求及び信用回復措置請求をすることができる。

問 9

ア～ウを比較して、商標登録出願に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 商品の普通名称は、いかなる方法で表示した場合でも、商標登録を受けることができない。
- イ 地理的表示法に基づいて登録された名称であっても、商標登録を受けることができる。
- ウ 他人の周知な商標と類似する名称を当該商標に係る商品と類似する商品について使用する場合には、商標登録を受けることができない。

問 10

ア～ウを比較して、著作者に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 映画の著作物の著作者は、監督等を担当してその映画の著作物の全体的形成に創作的に寄与した者である。
- イ 職務著作に係る著作物の著作者は、法人と著作物を創作した従業者である。
- ウ 編集著作物の著作者は、編集著作物を創作した者と素材を創作した者である。

問 11

ア～ウを比較して、独占禁止法に違反するおそれが低いと考えられる行為として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許ライセンス対象製品の販売地域を限定する行為
- イ 複数の同業者が、ある技術に関する各社の権利を1つの組織に集中させ、そこでライセンスを一括して行う行為
- ウ 特許ライセンス対象特許権の存続期間の満了後もロイヤルティを要求する行為

問 12

ア～ウを比較して、特許法に規定する手続の期間に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 国内優先権の主張を伴う特許出願の出願審査請求は、後の特許出願の出願日から3年以内に行わなければならない。
- イ 国内優先権の主張を伴う特許出願は、先の特許出願の出願日から1年6カ月経過後に出願公開される。
- ウ 国内優先権の主張を伴う特許出願に係る特許権の存続期間は、先の特許出願の出願日から20年をもって終了する。

問 1 3

ア～ウを比較して、商標法に規定されている制度として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 出願審査請求制度
- イ 更新登録制度
- ウ 分割出願制度

問 1 4

ア～ウを比較して、特許法で規定される、産業上利用することができる発明に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 人間を手術する際に使用する手術用器具は、産業上利用することができる発明に該当する。
- イ 實際上、明らかに実施できない発明は、産業上利用することができる発明には該当しない。
- ウ 産業上利用することができる発明は、工業的に生産することができる必要がある。

問 1 5

ア～ウを比較して、著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア アイデア自体は、著作物として保護される。
- イ 著作物は、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものでなければならぬため、創作性があっても図面は著作物として保護されない。
- ウ 著作物は、創作性がなければならぬため、表現に選択の幅があるほど著作物となる可能性が高い。

問 16

ア～ウを比較して、意匠として登録される可能性が高いものとして、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 物品の部分の形状
- イ 映画等のコンテンツを表した画像
- ウ 流通している物品と類似する形状

問 17

ア～ウを比較して、契約内容が履行されない場合の措置として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 強制履行
- イ 自力救済
- ウ 損害賠償請求

問 18

ア～ウを比較して、パリ条約に基づく優先権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア パリ条約に基づく優先権を主張して、外国に商標登録出願をすることができる期間は、最先の商標登録出願の日から12カ月である。
- イ パリ条約に基づく優先権を主張して、外国に特許出願をする場合には、最先の特許出願に係る発明が実施される前までに行わなければならない。
- ウ パリ条約に基づく優先権を主張して、外国に特許出願をすることができる期間は、最先の特許出願の日から12カ月である。

問 19

ア～ウを比較して、著作権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 頒布権を有する者は、音楽の著作物についてのみ、その複製物により頒布する権利を専有する。
- イ 著作権者は、その著作物の複製物を譲渡により公衆に提供する権利を専有する。
- ウ 著作権を譲渡するときは、その著作物のすべての著作権を譲渡しなければ、著作権の譲渡の効果は発生しない。

問 20

ア～ウを比較して、弁理士が単独で業として行うことができる業務として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 実用新案権に関する侵害訴訟の提起の代理
- イ 著作権についてのライセンス契約の締結の代理
- ウ 商標登録出願に関する特許庁における手続の代理

問 21

ア～ウを比較して、データベースの著作物の説明として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア データベースでその情報の選択又は体系的な構成により、識別性を有するものをいう。
- イ データベースでその情報の選択又は体系的な構成により、創作性を有するものをいう。
- ウ データベースでその情報の選択又は体系的な構成により、新規性を有するものをいう。

問 2 2

ア～ウを比較して、意匠権侵害であると警告された場合の対応として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 警告された実施品の物品等及び形状等が、登録意匠に係る物品等及び形状等と同一又は類似であるかを確認する。
- イ 実際に意匠権が存続しているか、警告者が意匠権者であるかを意匠登録原簿で確認する。
- ウ 異議申立期間中であり、かつ取消理由が存在する場合には、登録異議の申立てをする。

問 2 3

ア～ウを比較して、特許要件に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許を受ける権利を有する者の行為に起因して公知となった発明であっても、その発明が公知となった日から1年以内に特許出願をした場合には、特許される場合がある。
- イ 単なる設計変更や寄せ集め、最適な材料を選択しただけにすぎない発明について、特許出願した場合には、新規性を有しないことを理由に、拒絶される。
- ウ 同一の発明について、異なった日に二以上の特許出願があった場合は、最先の特許出願人に特許が認められる。

問 2 4

ア～ウを比較して、二次的著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 二次的著作物の著作権が存続期間の満了により消滅する場合、原著作物の著作権も同時に消滅する。
- イ 二次的著作物を利用する場合、原著作物の著作権者の許諾は不要である。
- ウ 原著作物の翻訳、映画化、編曲など、原著作物に新たな創作性を加えることにより創作された著作物は、二次的著作物となる。

問 2 5

ア～ウを比較して、契約の成立に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 18歳であれば、法定代理人の同意を得なくても、有効に契約を締結できる。
- イ 口約束による契約は認められていないため、申込の意思表示と承諾の意思表示が口頭でなされても、契約は成立していない。
- ウ 契約を締結した当事者の一方が、錯誤に陥っていた場合、契約は当然に無効となる。

問 2 6

ア～ウを比較して、意匠権の存続期間に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠権の存続期間は、登録日から20年であって、その存続期間の延長を請求することができる。
- イ 意匠権の存続期間は、出願日から25年であって、その存続期間の延長を請求することができない。
- ウ 意匠権の存続期間は、出願日から25年であって、その存続期間の延長を請求することができる。

問 2 7

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）における国際出願の手続に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際出願することによって、複数の指定国において有効な一の特許権を得ることができる。
- イ 国際出願として、各国で審査を受けるためには、優先日から30カ月以内に国内移行手続をしなければならない。
- ウ 国際調査報告は、出願人及び国際事務局に送付される。

問 28

ア～ウを比較して、特許庁に登録しなければ効力を生じない実施権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 専用実施権
- イ 独占的通常実施権
- ウ 職務発明による通常実施権

問 29

ア～ウを比較して、著作隣接権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 実演家は、実演家人格権として、公表権と同一性保持権を有する。
- イ レコード製作者の著作隣接権は、レコードに固定されている音を最初に固定した者に発生する。
- ウ 放送事業者及び有線放送事業者の著作隣接権の存続期間は、その放送又は有線放送が行われた日の属する年の翌年から起算する。

問 30

ア～ウを比較して、商標法に規定されている審判等に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 登録異議の申立ては、商標掲載公報の発行の日から3カ月以内であれば何人も請求することができる。
- イ 不使用取消審判は、利害関係人でなくても請求することができる。
- ウ 商品の品質の誤認を生じるおそれがあることを理由として商標登録無効審判を請求することはできない。

【3級学科】

番号 正解

問1 ア
問2 イ
問3 ウ
問4 イ
問5 ア
問6 ウ
問7 イ
問8 ウ
問9 ア
問10 ア
問11 ウ
問12 ウ
問13 ア
問14 ウ
問15 ウ
問16 ア
問17 イ
問18 ウ
問19 イ
問20 ア
問21 イ
問22 ウ
問23 イ
問24 ウ
問25 ア
問26 イ
問27 ア
問28 ア
問29 ア
問30 イ